

# グリーンアスパラガス

担 当 者 高 橋 春 貴

副 担 当 者 上 西 孝 明

試 験 課 題 名	立茎栽培後の影響及び回避対策試験
目 的	近年におけるアスパラガスの低収化を改善するため、増収技術の検討と、2年間立茎利用した後の茎数及び収量への影響を確認する。
期待される成果	増収技術が確立されることにより、収益性の改善が図られる。
連 携 機 関	士別地区農業改良普及センター JA 北ひびき和寒基幹支所 和寒町蔬菜組合連合会アスパラ部会

## 1 供試品種・資材

### 品種

※HLA-7 (ガインリム)

グリーンフット (カネコ種苗)

※基準品種

## 2 耕種概要

### 土 質～埴壌土

播 種 日～平成14年2月7日 鉢上げ日～平成14年3月18日

定 植 日～平成14年6月1日 収穫期間～平成17年5月23日～6月24日

栽植密度～畦幅 1.8m × 株間 0.27m 2,057 株/10a

### (1) 平成14年度土壌改良資材 (10a 当たり)

珪カル 180kg

苦土重焼燐 500kg

重過燐酸石灰 40kg

### (2) 施肥管理の経過 (kg/10a)

平成14年			平成15年			平成16年		
N	P	K	N	P	K	N	P	K
22.0	27.0	11.0	29.6	8.2	15.2	30.0	7.7	9.2
バーク堆肥 30t			バーク堆肥 3t			バーク堆肥 3t		

## 3 土壌診断結果と施肥量

### (1) 土壌診断結果

(mg/100g)

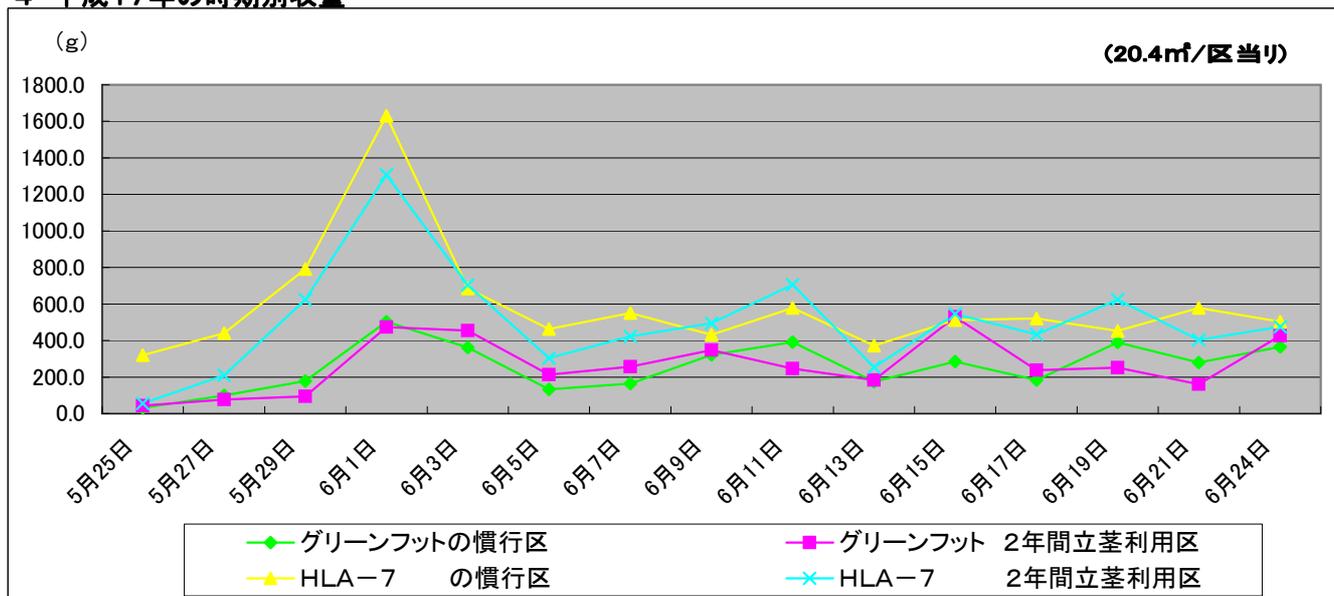
	pH	EC	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	K <sub>2</sub> O	MgO	CaO
植溝	6.6	0.12	123.5	59.2	30.2	324.3
通路	5.9	0.11	28.1	30.2	19.9	186.6

### (2) 平成17年施肥内容

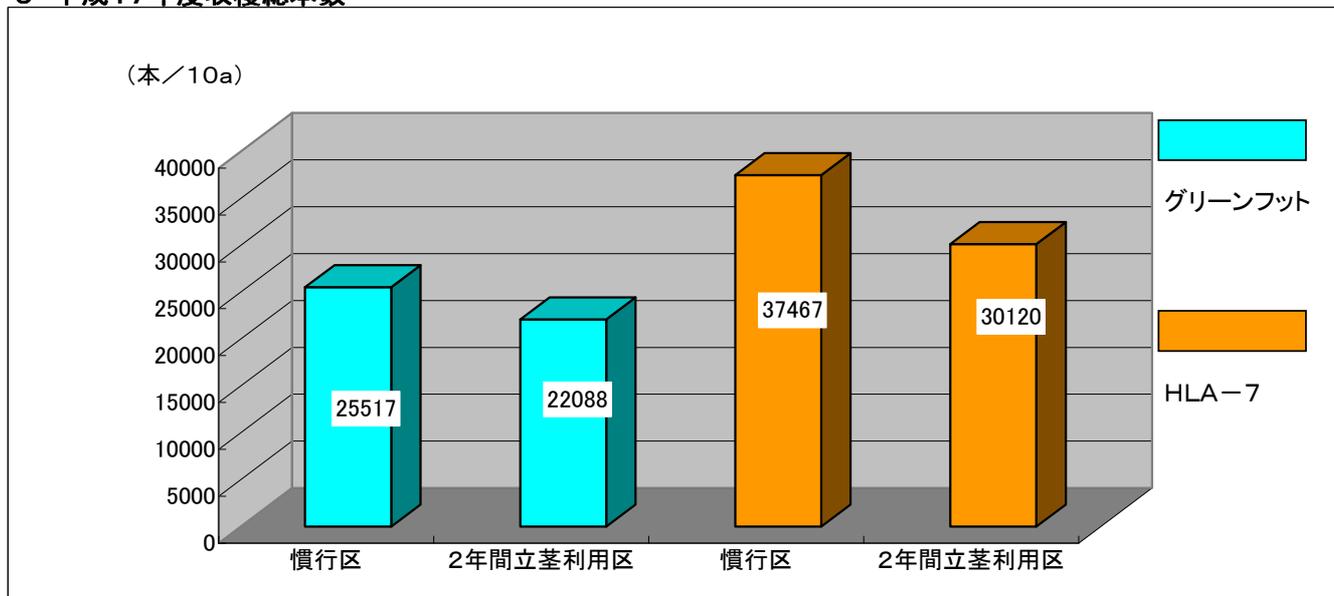
(kg/10a)

		N	P	K
基 肥	IB602 30kg	4.8	3.0	3.6
分 肥	IB602 100kg	16.0	10.0	12.0
	S444 20kg	2.8	0.8	2.8
合 計		23.6	13.8	18.4
バーク堆肥 3t		IB602 7月4日 S444 8月26日		

#### 4 平成17年の時期別収量



#### 5 平成17年度収穫総本数



#### 6 平成17年度総収量と品質

項目	品種	グリーンフット		HLA-7	
		慣行区	2年間立茎利用区	慣行区	2年間立茎利用区
総収量 (kg/10a)		519	450	767	630
規格別割合 kg/10a (%)	2L (1本33g以上)	27 (5.2)	37 (8.2)	110 (14.4)	110 (17.4)
	L (20~33g)	86 (16.6)	91 (20.2)	224 (29.2)	173 (27.4)
	M (13~20g)	87 (16.7)	102 (22.7)	123 (16.0)	88 (14.0)
	S (8~13g)	78 (15.0)	51 (11.3)	57 (7.4)	69 (11.0)
	2S (6~8g)	47 (9.1)	12 (2.7)	17 (2.2)	6 (1.0)
	外	194 (37.4)	157 (34.9)	236 (30.8)	184 (29.2)

## 7 防除履歴

殺菌	7月26日	ダコニール1000	1,000倍
	8月10日	フロンサイト水和剤	2,000倍
	9月1日	トップジンM水和剤	1,000倍
殺虫	7月26日	アデイオン乳剤	2,000倍
	8月10日	アデイオン乳剤	2,000倍
	9月1日	モスピラン水溶剤	3,000倍

## 8 平成16年までの管理概要

### (1) 平成14年《定植年の管理》

セルトレーに2月7日播種、育苗、12cm ポリ鉢に鉢上げし、100日（大苗）育苗、6月1日定植した。

倒伏防止は直管パイプ、フラワーネット等で行い翌年の収穫に備えた。

### (2) 平成15年《定植2年目の収穫と管理》

収穫は5月6日～8月31日まで118日間、収量はグリーンフット 1,051kg、HLA-7 1,041kg 肥培管理は道診断基準により、バーク堆肥 3,000kg N29.6 P8.2 K15.2(kg/10a)を施用、倒伏防止は前年同様に行った。

### (3) 平成16年《定植3年目の収穫と管理》

収穫は5月12日～9月7日まで119日間、収量はグリーンフット 796 kg、HLA-7 1,260kg と、高収量ではあったものの、グリーンフットの収量が前年に比べ減収となった。肥培管理は、バーク堆肥 3,000kg N30 P7.7 K9.2(kg/10a)を施用した。倒伏防止は前年収穫終了後、台風による倒伏がみられたので、防止強化のためエクセル線を使用することとした。

## 9 平成17年度の試験結果

(1) 融雪期は4月20日でやや遅く、萌芽始めは5月20日になった。しかし、その後も低温が続き、5月25日収穫始めとなり、各区共に6月24日まで31日間収量調査を実施した。

(2) グリーンフットの10a当り収量は慣行区 519kg、2年間の立茎利用区は 450kg となった。また、HLA-7の10a当り収量は慣行区で 767kg、2年間立茎利用区は 630kg と収量比ではグリーンフットが 86.7%、HLA-7が 82.1%となり、慣行区に対し立茎利用区の収量が共に減少している結果となった。

(3) 収穫総本数でも10a当りグリーンフットの慣行区は 25,517本に対し立茎利用区は 13.4%の減少となった。HLA-7でも 37,467本に対し 19.4%の減少となり、各品種共に立茎利用の影響が収量及び本数に出たものと考えられる。

### (4) 考察

平成15～16年の2年間立茎利用で17年の収量減が心配されていたので、慣行区（普通栽培区）との比較調査を行った。グリーンフットとHLA-7の品種特性の違いはあるものの慣行区に対して平均収量で 16.1%の減少結果となった。しかし、立茎利用区も10a当り 540kgの収量をあげることができたことから、今後は更に管理技術の向上があれば、収量減を最小限にできるものと期待し、内容を検討して試験を継続したい。